

(1) 施策の外部評価の結果 【第4回】

基本政策	快適で暮らしやすいまちづくり
施策展開の方向	安全で円滑な移動ができるまちをつくる
施策	29：バリアフリー対策の推進
目標とする状態	●日常的に利用する道路や公共交通のバリアフリー化が進み、誰もが、安全で円滑に移動しています。

施策の達成状況 ：A～D	第2分科会の 評価結果	施策の達成状況に関する各委員の判断理由・意見				
	C 計画より 遅れている	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通機関との協力体制が重要だと思う。 国の交付金が減少している中、緊急性・重要性が高いものを優先に実行してほしい。 事業の優先度は高いが、予算上の制約もある。 予算措置上の課題もある中で取組は評価できるが、さらなる推進を期待する。 高齢化社会に突入した現在においては必要不可欠な施策である。 ノンステップバスの導入については、民間事業者との連携のもと、着実に進めてもらいたい。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	C	C	C	C	C	
	計画より遅れている	計画より遅れている	計画より遅れている	計画より遅れている	計画より遅れている	
計画事業の構成 に関する評価 ：a～c	第2分科会の 評価結果	事務事業の構成に関する委員の判断理由・意見				
	b 概ね妥当である	<ul style="list-style-type: none"> 目標とする状態を達成するために、適切な事業構成であると評価した。 バリアフリー化を必要としている人へのアンケートなど、必要な調査を実施し、今後の取組に反映することが必要である。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	b	b	b	a	b	
	概ね妥当である	概ね妥当である	概ね妥当である	適切な構成である	概ね妥当である	
市民意識の反映 ：A～C	第2分科会の 評価結果	市民意識の反映に関する委員の判断理由・意見				
	B 概ね反映 されている	<ul style="list-style-type: none"> 定量評価結果においては、満足度が前回より上昇しており、継続した取組を期待したい。 バリアフリー化を必要としている人の意見をくみ取ることが必要だと思う。 行政として、優先度順位を付けて実施することが必要である。 交通弱者のニーズはハードルが高いが、行程表等を作り、理解を得る努力をするべきだと思う。 高齢化社会を迎えた現在にマッチした施策展開である。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	B	C	B	A	B	
	概ね反映されている	反映できていない	概ね反映されている	反映されている	概ね反映されている	
課題の捉え方 ：A～C	第2分科会の 評価結果	課題の捉え方に関する委員の判断理由・意見				
	A 課題の捉え方が 的確である	<ul style="list-style-type: none"> バスのノンステップ化は、バス業者との協議の上、引き続き取り組んでほしい。 バリアフリー化は予算との兼ね合いがあるだけでなく、公共交通機関等は相手企業の事情等もあるため、進捗状況が左右されるところだと思う。 交通弱者の移動しやすい環境整備は、少子高齢化社会におけるまちづくりにとって重要課題であることが、的確に捉えられていると評価した。 課題認識がされていると思う。また、道路構造物の適正配置の検討が必要だと思う。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	B	B	A	A	A	
	課題の捉え方に一部 不足が見られる	課題の捉え方に一部 不足が見られる	課題の捉え方が 的確である	課題の捉え方が 的確である	課題の捉え方が 的確である	
施策の方向性 ：A～D	第2分科会の 評価結果	施策の方向性に関する委員の判断理由・意見				
	B 継続実施	<ul style="list-style-type: none"> 市民への理解啓発や、広報、教育の実施が重要である。 高齢者、障害者、子どもなどの交通弱者にとって、より快適な生活空間を作ってほしい。 高齢化社会に入り、多様な市民ニーズに応えられるよう継続実施すべきだと思う。 今後の高齢化社会を見据え、誰もが安全で円滑に移動できるまちにしていけるためにも、歩行空間の確保は重要であると考えことから、継続的な整備推進を期待したい。 誰に対しても非常に有効な施策である。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	B	B	A	B	A	
	継続実施	継続実施	拡大して実施	継続実施	拡大して実施	

(1) 施策の外部評価の結果 【第4回】

基本政策	快適で暮らしやすいまちづくり
施策展開の方向	安全で円滑な移動ができるまちをつくる
施策	30：移動しやすい交通対策の推進
目標とする状態	●便利で利用しやすい公共交通の確保や交通安全対策・運転マナーが向上し、誰もが安全で快適に移動しています。

施策の達成状況 ：A～D	第2分科会の 評価結果	施策の達成状況に関する各委員の判断理由・意見				
	B 計画どおりの成 果が得られてい る	<ul style="list-style-type: none"> 指標が達成されており、計画どおりの成果が得られていると考える。 バスサービスの充実を感じている。自転車が関係している事故が減少していることも評価できる。 全国的にはバスの利用者が減少している中で、指標の達成状況は素晴らしい。また、自転車関連の事故が減っているのも施策展開の効果が出ていると思う。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	B	B	B	B	A	
	計画どおりの成果が得られている	計画どおりの成果が得られている	計画どおりの成果が得られている	計画どおりの成果が得られている	計画以上の成果があがっている	
計画事業の構成 に関する評価 ：a～c	第2分科会の 評価結果	事務事業の構成に関する委員の判断理由・意見				
	a 適切な 構成である	<ul style="list-style-type: none"> 指標、事業ともにわかりやすく良い。 目標とする状態を達成するために、適切な事業構成であると評価した。 事業の着実な進捗により、確実な成果が出ていると考える。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	b	b	a	a	a	
	概ね妥当である	概ね妥当である	適切な構成である	適切な構成である	適切な構成である	
市民意識の反映 ：A～C	第2分科会の 評価結果	市民意識の反映に関する委員の判断理由・意見				
	B 概ね反映 されている	<ul style="list-style-type: none"> 定量評価結果においては、満足度が前回よりも上昇しており、市民意識は概ね反映されていると評価した。ただし、市民意見や満足度評価から、交通不便地域への対応は継続実施が必要である。 交通対策や移動手段は市民にとって日々の問題であり、クレームや不満が多く出ているように思う。 市民は常に、より安全、より快適な公道・交通を望んでいる。 市民意識調査の自由意見等から判断すると、すべての市民要望を施策に反映していくのは難しいと考える。取捨選択も必要である。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	B	B	B	B	B	
	概ね反映されている	概ね反映されている	概ね反映されている	概ね反映されている	概ね反映されている	
課題の捉え方 ：A～C	第2分科会の 評価結果	課題の捉え方に関する委員の判断理由・意見				
	A 課題の捉え方が 的確である	<ul style="list-style-type: none"> 急速な高齢化社会に入り、交通弱者の移動手段としてコミュニティ交通の導入検討が必要である。 市民と行政の連携により、マナーの向上とルールの徹底がより一層必要である。 今後の少子高齢化社会を見据え、概ね課題認識ができていると評価する。ただし、便利で利用しやすい公共交通の実現に向けて、駅北口における鉄道と二次交通とのシームレス化も課題であるとする。 市民が安全で円滑に移動ができるようにするために必要な課題設定である。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	B	A	A	B	A	
	課題の捉え方に一部不足が見られる	課題の捉え方が的確である	課題の捉え方が的確である	課題の捉え方に一部不足が見られる	課題の捉え方が的確である	
施策の方向性 ：A～D	第2分科会の 評価結果	施策の方向性に関する委員の判断理由・意見				
	A 拡大して実施	<ul style="list-style-type: none"> 市民にとって、安全は日々の生活の中で一番身近なテーマであるとともに、関心度も高いので、さらに検討の余地があると思う。 道路整備、標識改善などのハード面の整備には費用がかかる。啓発活動や、小中学校への講習など、ソフト面の取組も充実することが大切であると思う。 交通不便地域への対応は難しい課題であるが、引き続きの検討を期待したい。 現在、日本が人口減少社会に突入した中で、拡大して実施するのは困難であると思うが、この施策を着実に推進して欲しい。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	A	B	A	B	A	
	拡大して実施	継続実施	拡大して実施	継続実施	拡大して実施	

(1) 施策の外部評価の結果 【第4回】

基本政策	快適で暮らしやすいまちづくり
施策展開の方向	便利で機能的なまちをつくる
施策	31：都市の機能をもつめる基盤施設整備の推進
目標とする状態	●広域幹線道路、市域の幹線道路の整備や公共下水道の整備などにより、都市機能の向上が図られ、便利で快適な暮らしを送っています。

施策の達成状況 ：A～D	第2分科会の 評価結果	施策の達成状況に関する各委員の判断理由・意見				
	C 計画より 遅れている	<ul style="list-style-type: none"> 内部評価の結果を考慮して評価した。予算措置上の課題があり、事業推進は容易ではないがさらなる推進を期待したい。 指標の達成状況を見て判断した。しかし、公共下水道の普及率は、その都市の文化度にも反映されるので、目標値に一歩でも近づくように施策展開を図ってほしい。 計画の遅れを予算獲得とともに、部門間連携で補うことが重要であると思う。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	C 計画より遅れている	C 計画より遅れている	C 計画より遅れている	C 計画より遅れている	C 計画より遅れている	
計画事業の構成 に関する評価 ：a～c	第2分科会の 評価結果	事務事業の構成に関する委員の判断理由・意見				
	b 概ね妥当である	<ul style="list-style-type: none"> 都市機能の向上を図るためには、必要な事業構成である。 インフラ整備では、技術面の客観的評価が必要であると思う。 国、県、そして市のより一層の連携により、施策の推進が図られていくことを期待する。 目標とする状態を達成するために、適切な事業構成であると評価した。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	b 概ね妥当である	b 概ね妥当である	b 概ね妥当である	a 適切な構成である	a 適切な構成である	
市民意識の反映 ：A～C	第2分科会の 評価結果	市民意識の反映に関する委員の判断理由・意見				
	B 概ね反映 されている	<ul style="list-style-type: none"> 定量評価と内部評価を考慮して評価した。 市民意識調査では、交通対策への意見が多く寄せられており、市独自の対策だけでは難しい問題も多いと思うが、社会環境の変化に応じた優先順位の見直し作業と現場の丁寧な広報も必要であると思う。 いかに大変で重要なプロジェクトを推進しているかということ、さらに詳しく大きく市民に伝えてほしい。 市民意識調査結果により判断した。ただし、市民の日常生活に大きく関連する施策であるため、全ての市民要望に応えるのは不可能であるとする。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている	
課題の捉え方 ：A～C	第2分科会の 評価結果	課題の捉え方に関する委員の判断理由・意見				
	A 課題の捉え方が 的確である	<ul style="list-style-type: none"> 事業の財源確保に一層の努力をお願いしたい。下水道事業は、最新技術の導入など、事業費を軽減していく方法にも十分留意・工夫をお願いしたい。 今後の人口減少社会において、東京圏約50キロに位置する本市の持続的発展には、都心の企業等に対するベッドタウンとしてだけでなく、市内に企業等があることが重要であるとする。企業の誘致や存続に向けては、流通を目的とした東名高速道路等の高規格道路とのアクセス利便性と通勤利便性の確保が必要であり、その目的にも合致しているとする。 自主財源を主とした施策展開が望めないため、財源を確保して、事業を実現して欲しい。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	B 課題の捉え方に一部 不足が見られる	A 課題の捉え方が 的確である	A 課題の捉え方が 的確である	A 課題の捉え方が 的確である	A 課題の捉え方が 的確である	
施策の方向性 ：A～D	第2分科会の 評価結果	施策の方向性に関する委員の判断理由・意見				
	B 継続実施	<ul style="list-style-type: none"> 便利で快適なまちづくりの実現のために、財源確保に困難があると思うが、この施策を継続して実施して欲しい。 担当部署の地道な努力に大いに期待している。 工事の優先順位付けなど、効率の整備についてさらなる工夫をお願いしたい。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	B 継続実施	B 継続実施	B 継続実施	B 継続実施	B 継続実施	

(1) 施策の外部評価の結果 【第4回】

基本政策	快適で暮らしやすいまちづくり
施策展開の方向	便利で機能的なまちをつくる
施策	32：公共施設の効率的な活用と維持管理・保全の推進
目標とする状態	●既存施設の長寿命化が図られ、適切な維持管理・保全により、市民が安心して施設利用ができています。

施策の達成状況 ：A～D	第2分科会の 評価結果	施策の達成状況に関する各委員の判断理由・意見				
	C 計画より 遅れている	<ul style="list-style-type: none"> 指標の達成状況より計画より遅れていると判断した。 内部評価の結果を考慮して評価した。予算措置上の課題があり、事業推進は容易ではないがさらなる推進を期待したい。 国や県の補助制度等を再度精査して、財源を確保していくべきだと考える。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	C 計画より遅れている	B 計画どおりの成果 が得られている	D 成果が見られない	C 計画より遅れている	C 計画より遅れている	
計画事業の構成 に関する評価 ：a～c	第2分科会の 評価結果	事務事業の構成に関する委員の判断理由・意見				
	b 概ね妥当である	<ul style="list-style-type: none"> 専門家による他自治体との比較や、中長期的な視点によるコストの平準化が必要だと考える。 公共施設の維持管理には、地域説明会やパブリックコメント等広報に努める必要がある。 事業構成は妥当であり、適切だと思う。市民の理解と協力、行政の知恵が必要である。 目標とする状態を達成するために、適切な事業構成であると評価した。 暮らしに身近な事業が網羅されていると考える。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	b 概ね妥当である	b 概ね妥当である	b 概ね妥当である	a 適切な構成である	b 概ね妥当である	
市民意識の反映 ：A～C	第2分科会の 評価結果	市民意識の反映に関する委員の判断理由・意見				
	B 概ね反映 されている	<ul style="list-style-type: none"> 利用者を含め、地域と市民の自己負担が求められる時代に入っている。施設を利用しない市民とのギャップを埋めるため、時間をかけて丁寧に説明することが大事であるとする。 公園については、市民は何ができるか議論することが必要である。 施設等を利用している市民の意見を直接聞いて、アイデアを出してもらおうのも一つの手ではないか。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている	B 概ね反映されている	
課題の捉え方 ：A～C	第2分科会の 評価結果	課題の捉え方に関する委員の判断理由・意見				
	A 課題の捉え方が 的確である	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設の長寿命化等は喫緊の問題であり、市民に欠かせないテーマでもある。 極めて重要なテーマであり、課題認識も的確と思う。あとは実現、実行するための知恵と工夫が必要である。民間の意見も大いに活用してもらいたい。 公共施設の整備は、市民の便利で機能的な暮らしに必要不可欠である一方、公共施設のメンテナンスフリー化や長寿命化は、安全性確保のほか、財政面や施設の有効活用の観点から重要な課題であると思われることから、的確であると評価した。 国や県からの補助金を確保することが重要であるとする。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	A 課題の捉え方が 的確である	A 課題の捉え方が 的確である	A 課題の捉え方が 的確である	A 課題の捉え方が 的確である	A 課題の捉え方が 的確である	
施策の方向性 ：A～D	第2分科会の 評価結果	施策の方向性に関する委員の判断理由・意見				
	B 継続実施	<ul style="list-style-type: none"> インフラに関して経済環境面から考えると、長寿命化は極めて重要な方向性であるとする。 市民の理解と協力なくしては進まない事業のため、問題意識の共有に努めるべきだと思う。 予算措置上の課題がある状況だが、橋りょうや下水道の長寿命化など、安全に関わる施策については、着実に推進してほしい。 長寿命化について、優先順位を付けて実施していけば成果が目に見えてくるのではないかと。 				
		各委員の評価結果				
		委員	委員	委員	委員	委員
	A 拡大して実施	A 拡大して実施	A 拡大して実施	B 継続実施	B 継続実施	